

令和6年第3回渋川市子ども・子育て会議 会議録

項目		内容
開催日時		令和6年10月28日（月） 午後1時半から午後3時まで
開催場所		渋川市役所本庁舎3階 大会議室
出席者	委員	16名
	事務局	8名
欠席者		4名
議題		1 開会 2 あいさつ 3 議事 (1) 渋川市こども計画（中間案）について 4 その他 5 閉会
発言者		議題・発言内容及び決定事項
事務局 会長		1 開会 2 あいさつ それでは、開会にあたりまして、斎藤会長から、挨拶をお願いいたします。
		<p>皆さん、こんにちは。今日、会場に入ってあれ、いつもと違うな、というふうに、お思いになった方がいっぱいだと思いますが、先日、私のほうから事務局の皆さんにお願いして、というのはいつもこの場で議事進行していて、皆さんから質問があるところから答えていただいている、私としてはこの位置にいて誰がしゃべっているかわからないし、ぜひみんなの顔が見えるように配置していただけないでしょうかというふうにお願いして聞き入れていただいたところです。</p> <p>さて、今日は議題こども計画の中間案についてということで、だんだん中身が詰まってきました。子どもの権利条約の考え方がこの計画の中にしっかりと反映されていると思うのですが、国連の子ども権利条約が採択されたのは1989年、日本の批准決議を取ったのが94年ですから、日本が批准してからちょうど30年という年にあたるというふうに気づきました。いくつか重要条文がありますが、基本的な考え方としては特に注目すべきだと思っているが、意見表明権というものです。これは人権の基本としては自己決定権と呼ばれる言い方ですけれども、自分のことは自分で決めていい、ただ、こどもが、自分のことは自分で言おうというふうにすると、ちょっと突き放したことになるってしまって、まだ未成熟だから、誤った自己決定をしてしまう。そこでこどもに対してあなたは何がしたいのということを聞いて、意見を述べてもらう。自分の考えを述べてもらって、大人社会から必要なアドバイスをして自己決定能力を高めていくという考え方があると理解しています。それはさまざまな場面、家庭においても学校においてもそうですし、ここで審議しているような社会全体としてこどもやこどもを育てる大人をサポートしていくということを考える場合にも必要な考え方だと思います。その視点がここに筋として通るように具体的なことも詰めていければなというふうに考えております。ではどうぞよろしくお願いします。</p>

事務局	<p>ありがとうございました。それでは議事に入ります。ここで配付資料の確認をさせていただきます。皆様方に事前に配付いたしました資料につきましては、渋川市こども計画の中間案でございます。皆さんお持ちでしょうか。</p>
事務局	<p>3 議事</p> <p>ここからの議事進行につきましては、渋川市子ども子育て会議条例第6条に基づきまして、斉藤会長に議長をお願いいたします。斉藤会長よろしくをお願いいたします。</p>
会長	<p>改めてどうぞよろしくお願いいたします。今日もお気づきになった方はどうぞ遠慮なくご発言いただき、活発な議論をしていただければと思っています。</p> <p>さて、議事1番だけですけれども、渋川市こども計画中間案についてです。今回は計画の中間案ですので、まだ確定案ということにはなっていません。調整中、精査中によるなどとなっていますので、ご承知おき頂ければと思います。それでは、事務局から説明をお願いします。</p>
事務局	<p>事務局より（1）渋川市こども計画中間案について説明</p>
会長	<p>ありがとうございました。では、皆さんからご質問があればまたお問い合わせください。</p> <p>前半の方は、現状認識ではこれまでやってきたことというのと、1章と2章ですね。まず、1章と2章について何かお気づきの点があればお話いただければと思います。</p>
委員	<p>立場的な部分と自治会長をやっているんですけれども。市の方に依頼したいことが多々あります。まず、こどもの居場所ということで公園が40ページに、安心して外出できる環境の整備ということで58ページに④公園の整備ということでありますが、私は北小地区のところにございまして、並木公園というのがあったり、北小との間に桜木が多々あって、これがもう寿命というか、大風が吹いたり、台風が来たりすると古いところから折れて、すごい危険を感じて、1か月ちょっと前に市の方に依頼して、一応マークというか、ピンク色の伐採準備ということでやって、毎日毎日まだやらないのかなって事故が起きてからじゃ遅い。私はもう市の方に話したから、私の責任はもうないですからねっていう話をさせてもらって、急にそういう木が落ちて即死をしたというニュースが出ても、なかなか市の方には本当にいっぱい課があって、何課に話したらいいかも最初わからなくて、そういう部分で居場所を安全にするっていうのが、こうやってテーマで出ているんですから、もう本当にすぐ取り掛かっていただいて、危ないところをすぐ直していただく。大体こういう会議、ここで言うと、それは何課ですからとかそういう話になってしまうのですが、ぜひ死人、けが人が出る前に公園がいい場所であるようにこの会議を通じていろいろと伐採、剪定していただければありがたいなと思います。よろしくお願いいたします。</p>
会長	<p>事務局から何かありますでしょうか。</p>
事務局	<p>委員さんからお話があった上では、かなり歩道にも根が張って、本当に小さい子のベビーカーとかそういったのも影響が出ているのかなと思います。こども計画を策定するにあたりましては、やはり従来からもそうだったのですが、全庁的に取り組んで多岐にわたる課と連携を図りながら、というただ内容にもありますように、移動時間やあとは安心して歩道や道路を歩けるようにということも都市政策課、また土木維持課とも連携を図りながらこれをまとめております。従来は関わりに距離があった建設交通</p>

事務局	<p>部門とか、あとは産業観光部門とも今は連携を図りながらこのこども計画を進めていかなければならないのかなというところで、より一層連携をしてやっているというのが現状でございます。</p> <p>先ほどのお話については改めて私の方からお話が合った件をつなげてまいります。</p>
会長	<p>よろしく願いいたします。ありがとうございます。</p> <p>確かにこどもの遊び場、あと歩道も大事ですね。歩道がデコボコしていると一番通りにくいのは確かにベビーカーとあと自転車だと思います。自転車の利用者って多くは中高生だと思うので、こどもたちが出っ張っているところ、特に暗いとお出張りもわかりにくいので、通学時に転倒して怪我をすることのないような木の枝を落とすよりももっと大変な作業で、お金もかかってすぐにはできないかもしれないですが、そういうところにもぜひお伝えいただければと思います。</p>
委員	<p>54 ページの基本政策 5-2 のこどもの犯罪等から守るための活動推進の部分ですが、ここにだけ PTA の文字が出てくるので、どうしても目に留まったところです。</p> <p>私が中学生の時代には、カツアゲや怖い先輩から声を掛けられるようなこともありました。私のこどもも今大学 1 年になり、娘が中 3 で、彼、彼女らの行動を見ておりますと、昔のようなこどもの活動のようなものは時代が変わっているんじゃないかなと思うところがございます。特に犯罪行為という観点で、昔のようなそういう直接的な行為よりも、今はどちらかというと SNS を経由したようなところで何か犯罪行為に引っかけってしまうというようなことが懸念されるというか、そこを親としても心配なところだと思います。PTA 活動につきましては今、非常に変革の大きな時期を迎えており、特にコロナ禍の 3 年間にわたる大きな中断を経て、各単位 PTA も組織がそもそも成立しなくなった学校がもう発生しています。もう伊香保の小学校さんは PTA がありません。そのような状況がございますし、私たち例えば自分の会長を務めている古巻中学校におきましても、やはり、このいわゆる補導とか防犯パトロールということで回っていたことがありましたが、ほとんどこどもがいないところをただ親が練り歩いているだけで非常に形骸化していましたので、私が会長になってからすべて撤廃をしたところがございます。</p> <p>そのような形で PTA のご家族の方の、いわゆる集中できる労力を本当に必要なところにだけ向けるということが、これからの PTA 活動かなり重要になってきます。</p> <p>そう考えますと、この部分については、理念としては非常に分かるころではありますが、ちょっとフィットしないのかな。もちろん小学校さんのときに協力させていただきましたけど、通学時の交通事故防止のための旗振り指導とかが本当に必要だと思います。あれが中学生の家庭から出てもいいかなと思っていたりしますけれど、ちょっと犯罪の防止という観点ではもうちょっとどうかな、というふうには思っているところです。特にこの生徒の下校時、親はまだ勤めている。今、共働き家庭がほとんどになってまいりましたので、ちょっとこういう大きな政策の中に入りますと、それが非常に強制力といったら言い過ぎになりますけれど、こうしてくださいね。というものになりかねませんので、こちら再考していただければと思います。</p>
会長	<p>ありがとうございました。なかなかご経験の基準で説得力のある話かと思ったのですが、どうでしょうか。</p>
事務局	<p>お話を受けて、時代の流れというものもありますので、こちらに掲載している学校教育課、生涯学習課とこちらの施策についてもう一度検討したいと思います。</p>

事務局	整理も必要かと思いますので、修正をしたいと思っております。
委員	もちろん誤解がないようにですが、施策のようなものに取り組んでいる学校もまだあり、全くないというよりは、状況がいろいろあるということでご理解いただけたと思います。
会長	ありがとうございました。質問いかがでしょうか。
委員	34 ページです。本当に前から計画的に変更されていて、すごく分かりやすいなとは思いましたが、こどもが幸せを感じながら成長していく。こどもが幸せを感じながら成長するって具体的な姿がこどもに関してわからなかったのと、理念としてはこのように関わるのでもいいなと思いますが、もう少し具体的な姿、前の資料ですと、例えばいきいきこどもが生まれ育つこととか、それからニコニコこどもを育てるっていうか、みんながこどもを包む地域とかっていうような、そういう具体的な姿がどこかで表現されていると、前の資料はそんなことが書いてあったと思うんですが、これだけだと、こどもが幸せを感じながら成長して、どういうことを具体的にイメージしたらいいのかな、なんていうのがわからなかったので、教えていただければと思います。
会長	いかがでしょうか。
事務局	あくまでも理念なものですから、今この計画のスタートというのはこども基本法ができて、またこども大綱が同時にできて、渋川市にとってどのような形で表せるかな、ということで、理念として明確で具体的なイメージということですが、まさにこの文字通りだと思っています。理念として私どもはこういった形でさせていただきたいなと思っています。確かにこどもまんなか社会というのも国が定めておりまして、その中ではやはりそういった表現を使いながらしているものですから、渋川市でも同様に理念として掲げたいと思ったもので、具体的にこうだと示そうとは思ってなかったという。ただ、基本的にはこども大綱、また国のこどもまんなか社会というところで目標を掲げているものは使わせていただきながら、渋川市でもこの理念を持って進めていこうというものでさせていただきました。
	前回からこのような形でお示しし、こどもが主体となってまさにこどもが主体であるというところをここで示したかったというところがございます。
会長	はい、さらにありますか。
委員	最初に頂いた資料は、もう少し広い意味でこどもの思いを感じながらといったことが書いてあったので。
事務局	それは前の計画の概要版なので、そもそもだいぶ今変わってしまっていて、子ども・子育て支援事業計画というのが従来からありまして、その計画が令和6年度をもって終わりますので、そのタイミングで子ども基本法が整理され、またこども大綱というのが整理され、こどもまんなか社会の実現のためにこども計画というのを作っていかようになっています。ですから今回、こどもを主体としたということを実践して、またこどもだけではなく、大人という地域全体へというその二本柱を理念とさせて関係させて進めさせていただきたいというものです。
委員	例えば主体とかそういう言葉を入れていく方がいいですか。
事務局	ちょっと検討させてください。ただ基本理念をこれからというのはかなり厳しいと

事務局	<p>ころがあると思います。</p> <p>大まかなところの考え方はこの方向でさせていただければと思っています。</p> <p>ただ、このようなところはさらに精査をしながら、必要があると判断したら変えさせていただくということによろしいでしょうか。</p>
会長	<p>今のお話の中で、こどもが幸せを感じながら成長している幸せを感じているこどもの様子ってどういう様子か想像していたのですが、もしかしてニコニコしているかもしれないし、怖がることなく安心して生活しているという姿かもしれない。そんなことがイメージできるわけですが、各施策を通じて打ち上げていけばいいのかな、ということを感じました。</p> <p>関連するといえば、関連するのですが私の方でちょっと気になった点があります。</p> <p>こどもは主体としての位置づけというのをここで前面に出していくのもいいと思うのですが、35 ページで気になったのは、啓発という言葉が3回出てきます。基本施策1-1の2行目、基本施策1-1の②のタイトル、それから1-2の①の内容のところで啓発という言葉が出てきます。</p> <p>何でこれが気になるかというと、啓発という言葉はだんだん使わなくなっているような気がします。それはともかくとして上から目線の言葉だと思います。啓発というのは、全てそういうふうに定義されているわけではないのですが、かつて私が見たある辞書では、無知のものを教え導くこと、というような説明がされていました。</p> <p>啓発という言葉を使うというのは、市民は無知なものだから、こどもの権利を侵害してしまうのが危険な人だというふうに見ていることになってしまわないだろうかということが気になる次第です。</p> <p>具体的にどうしたらいいかですが、基本施策1-1の2行目は理解を深めるための情報提供や啓発と書いてありますが、情報提供だけで意味が通じるのではないのでしょうか。</p> <p>同じくその施策の②こどもの権利の周知・啓発も、周知だけで足りるかもしれない。もし付け足すとしたら周知・情報提供でもそれと同じことだと思うので、周知だけでいいのかなと思います。本文の中で、社会全体で共有することを推進しますということが書いてあるので、それで足りるのかなと思います。また、1-2の方で人権教育・啓発を推進しますというのも、これは別の要望の問題にちょっと気になる場所ですけども、人権教育ということはどう定義しているのかな、というのが気になりました。</p> <p>つまり1-1のこどもの権利を大切に意識の醸成って、これ人権教育じゃないのですか。それとは別の話ですか、というのが気になります。</p> <p>実はその啓発という言葉とセットで使われがちな人権教育というのは、一般の人々に対して皆さん人権侵害してはいけませんよ、というお説教型の人権教育が念頭に置かれていることが今まで多々ありました。そういう上から目線で使われちゃう恐れがある言葉です。人権教育、それが啓発とセットで出てくると、ますますそうなります。</p> <p>人権教育というのは、そもそも皆さん人を差別しちゃいけないというよりも、皆さんは人権の主体ですよ。人権を持っているんですよ、使っていいんですよ、ということのほうが基本であるべきだと思います。その意味で、このページに書かれている基本的な考え方には賛成するのですがその表現の仕方として、これは代表になるわけではないのですが、1-1と1-2のタイトルの作り方がちょっと引かかるものがあります。</p>

会長	<p>1-1 が人権教育のことを言っているのに、1-2 が人権教育の推進というのは何のかというと、市民に対して人権侵害するなと呼びかけるのが人権教育だという前提に立っているのではないかという疑問が出てきます。その上で強いて言えば、1-1の方がこども・若者に自身の権利を認識してもらおうということが中心となり、1-2の方がこども・若者以外の人も含めて一人ひとりが自身の権利について、よく知っておこうということかなと思うんですけれども、結論としては、1-2の啓発ということは、削除するか、人権教育の情報提供とか情報共有とした方がいいんじゃないかと考えました。</p> <p>これについて事務局のお考えをお聞かせいただければと思います。</p>
事務局	<p>啓発という言葉については削除をしたいと思います。</p> <p>それから、人権侵害に対する対応というよりも、一人ひとりが自分の持っている権利について知っておこうという、そういった意味合いの方向にこちらの内容について変更したいと思います。内容にバランスが取れるように修正したいと思います。</p>
会長	<p>どうぞ、よろしくお願いします。もう1、2点ありまして、47ページですが、とにかく難しい問題だというのは承知で一言言わずにはいられないのですが、①のところでマイタウンティーチャー等による少数指導やティームティーチングの実施というのが出てきます。マイタウンティーチャーってつまり臨時任用ですよ。待遇悪いですよ。1年契約ですよ。それでいいのか、というのが根本的な疑問になります。教員定数を増やすのが本来の目的だと思います。ただ、市町村レベルで予算の関係でできることは限られていて、限られている中でやろうとするとこうなるというのはわからなくはないんですが、本当は違うんじゃないか、ということは念頭に置いていただきたいです。現状を踏まえると、このことは削れとは言わないのですが、本当はそれで足りる話ではないのではないかと、教員の待遇もきちんとすることがこどものためにこそ必要なんじゃないかと感じているので、そのことを申し上げておきたいと思いました。</p> <p>あと1点気になったところですが、65、66ページに関係するところですけども、65ページの7-2の②に出会いの場の創出というのがあります。</p> <p>従来よりは穏やかになって、偉そうな言い方ですが、許容範囲だなという感じはするのですが、何を問題視しているかと言いますと、今盛んに行われている婚活というのが抜本的な問題の解決になっていないんじゃないかと思っていまして、婚活パーティーとかをよく聞くのは、男性の方が大勢集まるけれども、女性はなかなか集まらないという話をよく聞きます。そうすると何が問題かというと、66ページの男女共同参画社会の実現というのができていないということが問題じゃないかということに思うのです。つまり、女性は、「男は仕事、女は家庭」というような観念に、凝り固まった男性とだったら結婚したくないという人が増えているのではないかと。</p> <p>そうするといくら婚活パーティーを開いたとしてもそれは問題の解決にならずに性別役割分業を乗り越える発想を持つ人を増やしていく、あるいはそういう生き方ができるような社会的なサポートをするということが本筋だと思っています。確か、ここも文言の修正を求めるといような意見でもないのですが、婚活支援を重視するという発想を変えていってほしいなという考えを述べておきたいと思いました。もし今申し上げた2点について、事務局の方で何かあれば両方とも変えたこととしてはこれで仕方ないのかな、ということを前提にする話ですが、と言われても困るかもしれないですけども、いかがでしょうか。</p>
事務局	<p>先ほどの2点につきましては、こちらで検討したいと思います。</p>

会長	<p>はい、ありがとうございました。</p> <p>私ばかり少し喋ってしまったので、他の皆さんからさらにお願いいたします。</p>
委員	<p>35 ページの人権教育ですけれども、今、自分と少し違う人、例えば障がいをお持ちの方とか学校にうまくなじめないお子さんとか、昔は普通に同じ教室でいましたけれども、そもそもそれを分けるような教育が取られていて、それは差別なのか区別なのか分かりませんが、そもそも日常的にこどもたちが触れ合う機会がないというのを現場が作っている状況で急に人権教育と言われても難しいところがすごくあるのではないかなと思います。まだここにはどこの担当課がどこだということは書いてないので、これからの議論するのもかもしれないですが、例えば支援学校のお子さんとともに活動する機会を作るとか、こどもたちが触れ合うような機会を私たちはどんどん除外してきてしまったので、そこを少し元に戻すような機会を作る必要があるのではないかなと思っています。</p> <p>もう一つは、こども・若者の就労の関係につながるかもしれないですけれども、幼少期からこどもが地域の事業と関係を持つような機会がもう少しあってもいいのではないかなと思います。この地域の私たちのような事業体も含めてですけど、就労する場を知らなくて外に出て行ってしまうという可能性ももちろんあるし、地元渋川市の企業の魅力を知らずに外に出て行ってしまうケースもあるかなと思いますので、こどもの頃に例えば職場見学では消防署に行ったり給食センターに行ったりするところはあるんですが、地元企業とのコラボレーションみたいなのはほとんどなくて、だから消防署に行ったら憧れの消防士さんになりますという人がいるように、地元で根差した地元企業を若いうちに触れることで、そういう地元の企業っていいなって思えるような機会をぜひ検討した方がいいかなと思いますが、そういうような書き方がここの中にはなかったので、ぜひ将来のこどもたちが渋川に残るような取り組みというのも計画の中に入れておきたいかなと思います。</p>
会長	<p>はい、ありがとうございました。事務局の方から何かありますでしょうか。</p>
事務局	<p>地元のこどもたちが地元の企業を知ることとちょっと観点が違うかと思いますが、この計画書の 52 ページのところに基本施策 4-3、多様な学びや遊びの影響による健全育成ということで 52 ページになりますけれども、52 ページの⑥でふるさと学習の推進というのが入っております。ここではまずは地元を好きになって、こどもたちに地元を好きになってもらおう、地元のことを知ってもらおうということで、生まれ育った地域の素晴らしさに気づいて、ふるさとに愛着と誇りを持つとともに、次代を担いその先の未来をつなぐ意識を発揮のため地域の自然や歴史、文化、伝統、産業、先人の功績などを学ぶふるさと学習活動の充実を図ります。ということでまた、違った観点からですが、渋川のことを知ることのところで産業の方を挙げております。再度検討したいと思います。</p>
副会長	<p>具体的に今改定いただくことは難しいということ承知の上でなんですけど、やはりどうしてもちょっと言っておきたいなと思まして 58 ページですが、居場所の確保というテーマです。上に説明文があって、ライフステージに応じて切れ目なく居場所を持つことができるよう居場所づくりを推進ということですが、居場所に集まってここ居場所だというふうに感じるのはこどもですよ。という視点でこの施策の中身を立てていくとすると、いっぱいある、たくさんやってくれている大人たちが考えてやってくれたものを使うこどもたちが、ここで切れ目なくここ居場所だなというふうに、言葉を</p>

こどもは思わないかもしれませんが、あそこに行きたいとか、あそこに行っているとほっとするとか、あそこに行つてあの大人と喋っていると気持ちが楽になるとか、そういうことを感じてくれるのが居場所だと思います。そういうデザインの仕方、この事業が並んでいるかっていうと、ちょっと違うかな、視点がもしかしたら違うかな、違うとは言えないかもしれないですが、大人の都合でプログラムが並んでいるように見えます。

それは今まで多分こういうことをやってこられていて、補助金事業がたくさんこの中には詰まっているであろうと思いますので、それぞれの分野でこどもの支援をしたいと思う人たちが、それぞれのやり方でやってらっしゃると思います。

それ自体は素晴らしいことだと思いますが、例えば年齢とか小学生であるとか、中学生であるとかの立場が変わると、こどもがその場所を利用できなくなるようなものが並んでいないだろうかということですね。

居場所って慣れ親しむって言うことがとても大事になってくると思うので、慣れ親しんだスタッフとずっとそのままつながれるかっていうと、小学生終わっちゃったからもうここ来られないんだよねとか。こども食堂もそうですけど、こども食堂は行くとすごくいいって、そこには大人がいて、その人と会えるからとか、話せるからそこに行くっていう子が、年齢がちょっと変わってくるとそのこども食堂を利用できなくなるとかいうことが、現場で多分起こっているのではないかと思います。そうすると、こどもの視点で考えたときの居場所づくりっていうもののコンセプトといいますか。デザインの仕方がここはもうちょっと欲しいかなと思います。関係している課も、こども支援課、生涯学習課、スポーツ課、都市政策課、実は隣のページの最後に学習支援をするということと言うと、地域包括ケア課が関わっていて、たくさんの課が関わっています。そうすると、横断的にこどもの視点で本当に利用しやすいもの、居場所ってこどもが思えるようなものを組み立てていくには、時間をかけた議論をして協力し合えるものはプロジェクトを一本にしていくとか、そういうことが必要なんじゃないかなと思います。利用する立場が居場所だと思えるようなものを作っていくっていう視点でいかないと、こどもまんなか社会って言っているものにはなっていないのではないかな。今まで大人が作ってきたものを集めました。そしてこれがこどもの居場所ですっていう提示の仕方、こどもの居場所を作るとするのは、やはり過去のやってきたものの、上に乗った大人の都合の発想ではないかなとちょっと思います。非常に一生懸命やってくださっている方々がたくさんいるのは分かっている上で、せっかく子どもの権利条約を持ってきたこども計画なのであれば、こどもにとってという視点を本当に大事にして、少々時間がかかっても大人同士に都合が悪くても事業の見直しとか組み方を変えていくことに取り組んでいただきたいなと思いました。

今回の検討に間に合わなくても適宜見直しと書かれておりますので、ぜひとも長期的に見直しをしつつでお願いしたいと思います。ともすれば過去の時代のものを集めて居場所という言い方で、大人がプログラムを組みましたっていう形になりかねないので、そこを大事にしていきたい。具体的に言えば、例えば子ども権利条約をもとに作った施設で前にも申し上げたかもしれませんがこの川崎市の子ども夢パークというところはこのこどもの居場所としてずっと、こどもが小さい幼児の時から大人になってもそこにたくさん相手として慣れ親しむスタッフがいるんですね。できないわけではないと思います。そういうところもありますということで、お願いをしていきたいと思います。

<p>会長</p>	<p>私が思ったことを一言付けますと、この 58 ページの③の学校施設開放の説明が学校施設の地域に開放、市民の利用促進を図りますという内容で、この内容を読んだだけではそれがこどもの居場所確保だということが伝わってこないように思います。</p> <p>ただ、私のこどもの経験でいうと中学校の時に学校で放課後に部活動してくるのですが、家に帰ってきてから夕食をまた社会体育館に出かけて行って、部活動としては同じ種目ですが、地域の大人たちに教えてもらいながらその競技の練習をするということをしていました。そうすると、学校施設の開放とか社会体育館とかそういう施設をこどもも大人も使えるようにするということが、その役割としては今副会長がおっしゃったような意味でのこどもの居場所という可能性は十分あるとは思いますが、この整理の仕方だとどうしても整然的なものに見えてしまうというのが私の感じです。</p> <p>副会長がおっしゃってくださったことのほうが本質ですが、何かあったらお願いします。</p>
<p>事務局</p>	<p>時間が許されるかわからないですが、関係課と調整しまして、方向性とか、そういったところでも具体的にどこまで表せるかなというのは、ちょっと話してみたいと思います。</p> <p>仮にできなかったら、例えば先ほどおっしゃっていただいたように見直しのタイミングで何か見えるような形にしたいなという気持ちを、今持っています。ちょっと検討したいと思います。③番の学校施設開放については、もう少し内容の方を整理しわかりやすくしたいと思います。</p>
<p>会長</p>	<p>3 章 4 章について進めてきましたが、まだ 3 章 4 章についてここは聞いておきたいことがありますたらお願いします。</p>
<p>委員</p>	<p>大変興味のある 65 ページ。基本施策の 7-3 ということで産業誘致によるというものがあるので、これも私が若い頃からこういうことを渋川市でよく聞いていたのですが、実績みたいのが具体的に教えていただけたらと、あとは渋川市含めて群馬は大本営が来るかもしれないという戦争時代の話で、非常に地盤が強くて大きなビルを建てても全然問題ないと、ただ山が多いということで大変なのかなと思いますが、台湾の大企業が熊本県に来たら 7 兆円を超える経済効果があり、人口もどんどん増えているという、近所の中華の店が 600 円で売っていたラーメン 1000 円でも人が入れないというような状態が生まれている。非常に羨ましい限りの話は耳にしますが、渋川市がずっと前から言っている中で、何かもうこれが動きそうだとか、そこまで細かく言えないかもしれませんが、これは絵に描いた餅じゃなくて、やっぱり本気でちょっとした企業、前は浅野さんが頑張ったときに大同さんですとかいっぱい来た時期はありましたが、その後の結果はあまり見えていない気がするんですけども、ここに載せた以上、何か動きがあってほしい。</p> <p>私どもの仕事は、人口が減るとこどもが減ることなのでなかなか経営がままならない。そういう部分もありますので、ぜひ人口を増やすためにも企業の誘致、産業の誘致をどんどん進めていってもらいたいんですけども、以上です。</p>
<p>会長 事務局</p>	<p>ありがとうございました。事務局から何かありますか。</p> <p>正直なことを申し上げますと、具体的なものは今までありませんでした。当然、県の企業局とともに、そういったもので進めようという試みはしておりました。ただ、なか</p>

事務局	<p>なかい結果にはつながってないです。少しですが、今有馬の企業団地というところで従来からあるものが細々と、というような状況でございます。中村にとかそういった話もありましたけどもなかなか進んでない状況ですが、今具体的にプロジェクトチームを立ち上げました。具体的に結果を出したいというところで、そんなような動きもしているところでございます。この作業の制作を中心に今庁内で本当に具体的に進めたところでございます。そういったところで今回ここにこのような形で載せたというのはその意気込みというか、そういったのも表しているものだと思います。具体的に動き出しましたので、こちらとしてもその結果によってこのような形でうまくつなげたらということで、担当部署と調整をしながら記載をしたところでございます。</p>
会長	<p>ありがとうございました。さて3章、4章についていかがでしょうか。</p>
委員	<p>民生委員児童委員として地域の子育て応援団という形をとっています。</p> <p>それから今、学校、家庭、地域3者連携してこどもを育てるという形で進めておりますので、今回、地域全体でという言葉を入れていただいたのが良かったかな、というふうに私は思いました。</p>
会長	<p>ありがとうございました。そのほかにいかがでしょうか。</p>
委員	<p>34ページの基本目標7番、基本施策2番、結婚を希望する若者への支援等ということで、こちらの項目だけ「等」という表現をされていますが、「等」とした意味を教えてくださいな、と思っていたところです。もしかしたらですけども、結婚を希望する若者等への支援なのかなというふうに私の中では感じたところでした。等というからには支援がいくつかあるのかな、支援のほかにも何かあるのかなと思うと、それしか事業の中でなくて基本目標7のところですので、64、65ページです。</p>
会長	<p>いかがでしょうか。</p>
事務局	<p>確認をしながら精査したいと思います。</p>
会長	<p>①の結婚等に伴う新生活への支援というのは、すでに結婚した人を対象にというふうに思われているでしょうから、結婚を希望する若者というのを厳密に定義すると、そこから外れちゃうとすれば等の位置が若者等なのかもしれないですね。そのあたり含めてお考えいただければと思います。</p>
委員	<p>62ページの障がい児支援の充実の部分ですけども、今私が聞くところによると、児童発達支援と放課後等デイサービスについては、希望する人数に対して受け皿が足りていないということを聞いていまして、児童発達支援なんかでいうと、渋川市で入るところがないから前橋市の児童発達支援を利用しているという実態も聞いております。こどもたちというのは、幼稚園だとか保育園の年代を卒業するとまた小学校入るときになかなか前橋の放課後等デイサービスというのは、送迎などが難しくてもう一度渋川市で居場所を探し直すということが必要になってきます。なので、この部分については今一度、希望する需要と受け皿の数というところをもう一度見ていただいて、数の確保というところをしていただければなと思います。</p>
会長	<p>ありがとうございます。①についてのここに挙げるのはいいんですけども、中身をよりしっかりしてほしいということかなと思いましたが、少し事務局の方で回答していただける部分がありましたら。</p>

事務局	<p>直接の担当がいなくても確認をしながら、先ほどのおっしゃった動きは十分分かりましたので、その辺りのところをどのような形で計画にできるか再度確認をさせていただきたいと思います。</p>
会長	<p>どうぞ、よろしくお願いします。そのほかいかがでしょうか。では、5章の6章について質問がありますでしょうか。</p>
委員	<p>77 ページの利用者支援事業について、実績で令和5年度は3となっており、令和7年度の見込みが2ということで、以降は2ですけれどもその3についても何を指して3なのか。その後の2というのは何を指して見込みとしているのか。こちらの表を見た限りではわからないということと、あとは、そもそも利用者支援事業というところで、具体的に何の利用者というところを記入されないと、これだけ項目を見ても読んだ方にはわからないのではないかなというふうに感じました。子育て支援センターとかそういう施設かな、というふうには推測はできるんですけどもこれだけ読んだところで何を指しているのかというのがちょっとわからなかったもので、教えてください。</p>
会長	<p>確かに利用者というのは誰を指すのかとか、そういったことは書かれていないのですね。</p>
事務局	<p>国が求めている事業量を確保しなければならないので、子ども・子育て支援事業計画ということを引き継いだ部分でございます。分かりやすい言葉に修正させていただきたいと思います。</p>
委員	<p>子育て世代包括支援センターというのもありますよね。また、子育て支援センターというのもあったり、その3つというのが何を指すのか、これはここだけを読んだだけで分からないので、その説明をしていただきたいというふうに思います。</p>
会長	<p>ありがとうございました。そのほか5章6章で引き続き質問がありますでしょうか。</p>
委員	<p>資料の76 ページの子育て短期支援事業（ショートステイ）で利用者数がゼロということですが、これまでかつて何年も利用者数がゼロということで、どのようにお知らせをしているのかというのを前回、話が出たと思います。しっかりとした周知をお願いしたいと思います。</p>
会長	<p>ほかにごいませんか。質問が無ければ、以上で議事の（1）渋川市こども計画（中間案）については、終了させていただきます。事務局に置かれましては、委員から挙げた意見等を踏まえて、引き続き、策定作業を続けていただければと思います。委員の皆様から、全体を通して何かございますか。よろしいでしょうか。以上で役目は、ここまででございます。</p>
事務局	<p>4 その他</p> <p>ありがとうございました。では、次第の4に入ります。事務局から事務連絡をさせていただきます。</p> <p>こども計画を議題とする会議につきましては、年度中にあと1回開催させていただく予定です。今後のスケジュールとしまして、渋川市こども計画について12月2日から翌年、令和7年の1月6日までの間で市民意見公募を実施いたします。その結果を受けまして、最終の確認作業に入ります。概ね令和7年1月中旬頃までには最終案としてまとめられると思いますので、次の会議は令和7年1月の下旬を予定しております。</p>

事務局	<p>ます。日程を調整して後日通知いたしますので、よろしくお願いいたします。事務局からの連絡は以上となります。委員の皆様から何かございますか。</p>
会長	<p>市民意見公募については、どのような方法を予定されていますか。</p>
事務局	<p>市民意見公募については、紙ベースで市内の各所に置く予定です。置く場所としては、市役所の本庁舎と第二庁舎、それから各行政センターに一部ずつ紙ベースで置きます。それから、ホームページ上でも掲載をします。</p>
会長	<p>市の広報ではどうでしょうか。</p>
事務局	<p>広報に置かしましては、いつからいつまで市民意見公募を実施しますというお知らせを掲載します。</p>
会長	<p>インターネット上で公開とかそういうことはないでしょうか。ホームページ上で資料を公開してインターネットから意見を受け付けるということはないですか。</p>
事務局	<p>それも受け付けます。</p>
会長	<p>わかりました。ありがとうございました。</p>
事務局	<p>他にございませんか。</p>
事務局	<p>5 閉会</p> <p>これを持ちまして令和6年度第3回渋川市子ども・子育て会議を閉会させていただきます。ありがとうございました。</p>